

事例9

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、甲状舌管嚢胞の患者。
- ・ 甲状舌管嚢胞摘出術を施行。手術時間は約2 時間半。術中出血量は少量、手術終了後に抜管。
- ・ 病棟帰室約4 時間後より唾液の飲み込みにくさ、頸部の軽度腫脹があった。約7 時間後、軽度の息苦しさがあり、座位となっていた。酸素投与を開始し、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 99% であった。数分後にナースコールがあり、座位で喉を押さえていた。ガーゼが外れ創部周囲に著明な皮下出血と腫脹を認め、眼球上転し意識消失。気管挿管を試みるが困難。輪状甲状間膜切開を施行するが腫脹が強く、さらに下方を再切開し気道を確保した。血腫除去術を施行したが、約3 か月後死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞に伴う低酸素脳症。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。